

新しい時代のダム管理のあり方 ~ ダムの管理体制 ~

ダムの特性に応じた管理体制

大規模ダム
受益範囲が広く効果が大きい。

水利用が複雑
警報区間が長い
河川利用が多い

小規模ダム
受益範囲が限定
水利用が単純
警報区間がない
河川利用が少ない

常駐管理(ダム管理所)

平常時、洪水時、夜間休日にかかわらず、職員又は外部要員が常駐



非常駐管理(ダム管理所)

平常時
巡回管理にて、巡視及び機器の日常点検等を実施

洪水時
職員及び外部要員が常駐
ダム下流河川のパトロール



非常駐管理(土木事務所)

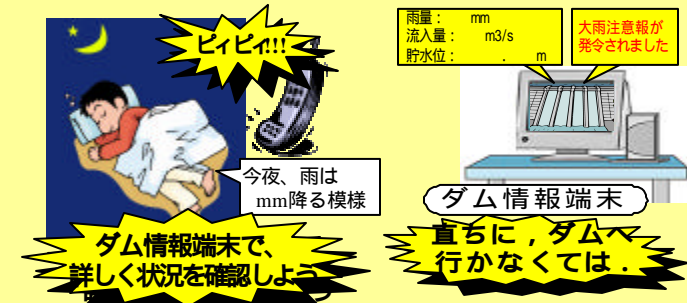
平常時
職員が常駐
ダム管理情報の遠隔監視
利水放流設備の遠隔操作
ダムの巡回管理

洪水時
職員が常駐
ダム管理情報の遠隔監視
ダム管理所への参集
ダム管理上の判断



非常駐管理(職員宅)

夜間・休日
情報端末や参集システムによるダム管理情報の把握
ダム管理所への参集



大規模ダム

ダム管理所

小規模ダム

ダム管理所

土木事務所

職員宅

ダム管理者の役割

ダム管理全体を統括
気象、水象、ダム、貯水池、下流の状況を常に監視
ダム管理上の判断、連絡、指示

外部要員の活用

外部要員活用の条件整備
ダム管理者がダムの状況を把握し、適切に支持できる体制の確保
マニュアルの整備
職員の連絡体制の整備

外部要員の資格、研究制度の充実

非常駐管理の条件

洪水、地震、水質事故等の緊急時
・所要時間内に確実に職員が出動
平常時のダムや貯水池等の巡回管理機器の日常点検等
・ITを活用してダムの状況や気象状況を把握し、迅速な対応を行う体制

専用回線